

4 学年社会科学学習指導案

指導者 吉本 賢司

1 単元名 「鉄道が通った」～雨宮敬次郎と中央本線の開通～

2 単元について

(教材観)

本単元は、学習指導要領の内容(5)の「ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例」に基づき、甲州市塩山出身の実業家雨宮敬次郎が関わった、鉄道開通の過程を取り上げる。

雨宮敬次郎は、1846年に現在の甲州市塩山牛奥で、名主を勤めていた雨宮総右衛門の次男として生まれた。13歳まで学問修行をした後、鶏卵をはじめ生糸買い、蚕卵紙等の行商を始めた。1872年には横浜に進出し、洋銀相場や生糸の商売を手がけ、浮き沈みの激しい生活をしていて、そのとき横浜で多くの外国人と接したことで欧米進出への関心を抱くようになった。そして、実際に欧米に行ったものの、商売は思うようには失敗。しかし、この渡航により見聞を広め、その後の事業に大いに影響を与えることとなる。帰国後は、製粉事業や軽井沢の開墾事業に着手、続いて織機、製鉄、水力発電、そして鉄道など広範な事業を展開した。富国強兵のための殖産興業を重視し、特に交通機関と製鉄事業の重要性を説いて、明治20年代には鉄道事業を中心とした事業を興すようになる。甲武鉄道(現在の中央線)をはじめ、東京市街鉄道(現在の都電)、川越鉄道、江ノ島電鉄、小田原―熱海間の人車鉄道等である。このころは、他に若尾逸平、根津嘉一郎ら山梨出身の事業家が財界に活躍し、「甲州財閥」と呼ばれていた時代であり、雨宮敬次郎も「天下の雨敬」として名をとどろかせることになった。現在では、塩山駅を出て東側に「雨敬新道」や「雨敬橋」があり、その名を残している。

鉄道開通については、1903年(明治36年)、中央本線が甲府まで開通したが、そこに至るまでの経過は決して平坦な道ではなかった。雨宮敬次郎は、殖産興業による国の発展のため、また、鉄道がなく維新による文明開化の発展から取り残されていた山梨県のために、鉄道開設に向けた独自の測量や調査を行った。そして、当時所有していた東京飯田町から八王子までの甲武鉄道を甲府まで延長することを、何度も国に働きかけたことで、念願かなって中央本線の開通が決まったのである。また、工事が始まってからは、落盤やガス中毒等大変な苦勞と犠牲を伴ったトンネル工事、トンネル等に使うれんが工場からの煤煙による周辺農家への被害等、さまざまな苦勞があつて中央本線が開通したのであつた。

こうして開通した鉄道により、物流の中心が、甲州街道や富士川舟運などによるものから、中央本線に移行し、塩山駅周辺は大きな変貌をとげた。当時の主要な生産業である養蚕業や、神金からの石材業をより発展させ、現在の塩山地域の発展につながるのである。雨宮敬次郎の功績、中央本線の開通、そしてその後の町の移り変わりについて取り上げることで、現在の自分たちが住む塩山地域について改めて見直し、先人たちのさまざまな苦勞や努力によって、現在の自分たちの生活につながっていることを実感できると考えられる。

(児童観)

昔のことについて調べることは、3年生の時に学習指導要領の内容(5)の「ア 古くから残るくらしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」および「イ 地域の人々が

受けついできた文化財や年中行事」で学習している。そこでさかのぼるのは祖父母か曾祖父母の年代までであるが、本単元では、さらにそれよりも前の時代を取り上げることになる。子どもたちにとって、身近に感じられないことが想定される。そのため、現在の見慣れた景色や建築物につながるような写真資料などを扱うことによって、自分たちの現在の生活につながっていると実感させるようにすることで、子どもの意識を昔と現在を近づけるようにしていきたい。また、衣食住に関わる昔の道具を学習してきたように、当時さかんに行われていた地域の産業である養蚕の道具等を提示し、実際にふれさせることで当時の生活の様子など関心をもたせていきたい。

(指導観)

本単元では、「地域の発展に尽くした先人」として雨宮敬次郎に焦点を当て、その経歴やどんな思いをもって鉄道事業に携わっていたか、またふるさとの発展に貢献した功績を調べさせる。そして、それらに関係づけて、中央本線の開通とそれに伴う塩山駅、塩山地域の現在に至るまでの発展について学習していく。

はじめに、かつて日本中で活躍した偉人が、身近な地域にいたことに関心をもたせたい。そのため、単元のはじめに地域に住んでいる方をゲストティーチャーとして招き、地域出身の立志伝中の人物として話を聞く機会を設定する。そこでインタビューしたことをもとに、単元中の各時において子どもたちにフィードバックしながら学習を進めていきたい。自分たちの地域を改めて見直す機会とし、授業では「雨敬さん」と呼んだり、随時「雨敬さん」の残した言葉（雨敬語録）を紹介したりすることで、親しみを持って調べていけるようにしていきたい。

また、当時の産業・輸送の実態や、当時の人々がどんな願いをもちどんな工夫や努力をしてきたかを、副読本や当時の様子を伝える資料を通して、調べさせていきたい。雨宮敬次郎をはじめとする当時の人々の願い、苦労について考えさせ、こうした先人たちの努力によって、現在の自分たちの生活の場につながっていることに思いを至らせていきたい。

3 児童の実態

男子14名、女子24名、計38名の学級である。

本単元を進めるに当たり、児童に社会科についての意識調査を行った。

○社会の学習の中で、好きなことや、やってみたいと思うことは何ですか。（複数回答可）

ア 表やグラフなどを見て調べる。	10名
イ 写真や地図などを見て調べる。	19名
ウ じっさいに見学して調べる。	26名
エ じっさいに見たりさわったりして調べる。	23名
オ 働いている人やくわしい人の話を聞く。	18名
カ その他	
・本やパソコンで調べる。	2名
・パソコンで調べる。	2名
・昔の道具を使ったりさわったりする。	1名

子どもたちが社会科でやってみたいことで多かった意見、実物を見たり触ったりすること、写真や地図などを調べること、話を聞くことを今回の単元で重視していきたい。本来であれば、一番多い見学ができればよいのであるが、現在、雨宮敬次郎について名を残すものは、学区外

にある雨敬新道や雨敬橋がある程度で、その功績を感じることができる身近な施設や建築物が存在しないため、今回は見送った。

○みなさんの身近なところにある、有名なもの、古くから伝わるものなどで、思いつくものは何ですか。(いくつでも)

- ・ぶどう (32名)
- ・もも (26名)
- ・富士山 (23名)
- ・甘草屋敷 (11名)
- ・ワイン (10名)
- ・さくらんぼ (7名)
- ・すもも (7名)
- ・たてなしの鎧 (5名)
- ・武田信玄 (5名)
- ・塩の山 (5名)
- ・塩山北小 (5名)
- ・山 (3名)
- ・だるま図 (3名)
- ・向嶽寺 (2名)
- ・ほうとう (2名)
- ・武田信玄の墓 (2名)
- ・干し柿 (2名)

(以下1名ずつ)

- ・国宝
- ・武田神社
- ・くだもの
- ・土かべの家
- ・信玄餅
- ・武田信玄の像

○山梨県，甲州市，塩山で有名な人やみんなの役に立ったことをした人という、だれのことを思いうかべますか。(何人でも)

- ・武田信玄 (26名)
- ・だるまさん (2名)
- ・市長さん (2名)

(以下1名ずつ)

- ・おぼうさん
- ・武田家
- ・ワイン工場働く人
- ・県知事さん

雨宮敬次郎について知っている児童はおらず、また、地元の偉人である意識もない実態である。これまでの学習で、地域にある歴史的、文化的価値の高いもの(甘草屋敷、たてなしの鎧、だるま図、向嶽寺など)について記している子が多く、地域にある昔への関心が感じられる。新たな地域の昔に向けて、関心をもたせるようにしていきたい。

○甲州市，塩山のよいところは、どんなところでしょうか。(いくつでも)

- ・ワイン，ぶどう，もも，さくらんぼなどが多い。(7名)
- ・優しい(親切的な)人が多い。(6名)
- ・富士山が近い。(5名)
- ・ぶどうやももがうまい。(4名)
- ・自然が多い。(4名)
- ・空気がきれい。(3名)

(他少数意見)

- ・ぶどうがおいしい。
- ・ワインがうまい。
- ・ごみがない。
- ・フルーツや山
- ・しずか
- ・山がきれい
- ・さくらんぼの量が全国二位
- ・礼儀正しい
- ・国宝がある
- ・塩の山
- ・希少価値のあるものを大切に保管している。
- ・おいしいくだものがいっぱいある。
- ・カブトムシやクワガタがたくさんとれる。
- ・ぶどうがたくさんとれる。
- ・近所つきあいがよい
- ・富士山が見やすい。
- ・緑がいっぱい。

地域の特産物であるワインやくだものについて、よく意識している。優しい（親切的な）人が多いという意見が多く、自分たちの地域の人々に対して、好感をもっていることが感じられる。地域に住む方々との交流の機会（お年寄りを招いての「大先輩とのふれあい集会」や「ふるさと学習」、登下校時に子どもを見守ってくれる「子ども見守り隊」など）が多いことも、子どもたちの意識につながったと思われる。少数意見ではあるが、国宝や希少価値があるもの（文化財を指す）に着目した子も見られる。身近なところに住んでいる方に話を聞き、これまで知らなかった地域の偉人や昔の様子に目を向けることは、自分たちの地域に関心をもつきっかけとして、有効な機会であると考えている。

4 単元の目標と評価規準

(1) 目標

塩山出身の雨宮敬次郎を通して、鉄道の開通とそれにとまなう地域の発展に尽くした先人の願いや苦心について理解する。

(2) 評価規準

【社会的事象への関心・意欲・態度】

地域の発展に尽くした先人のはたらきに関心を持ち、それを意欲的に調べ、地域社会の人々のよりよい発展を考えようとしている。

【社会的な思考・判断・表現】

地域の発展に尽くした先人のはたらきから学習問題を見いだして追究し、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人のはたらきや苦心について思考・判断したことを言語などで適切に表現している。

【観察・資料活用の技能】

地域の発展に尽くした先人の具体的事例を的確に見学、調査したり、年表などの資料を活用したりして必要な情報を集めて読みとったりまとめたりしている。

【社会的事象についての知識・理解】

地域の人々の生活の向上に尽くした先人のはたらきや苦心について理解している。

5 指導計画および評価計画

時	学習内容	目標	評価規準
1	<p>オリエンテーション</p> <p>○昔の塩山の写真と今の塩山の写真を比べて、変わったところや気づいたことを出し合う。</p> <p>○地域にある「雨敬」という言葉に関心を持ち、鉄道の開通と関係があることを知る。</p>	<p>○昔の塩山駅の写真をもとに、昔の土地の様子や人々の暮らしに関心をもつことができるようにする。</p>	<p>○昔のくらしや土地の様子、人物について関心を持ち、意欲的に調べようとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>○今と昔の様子を表した写真を比べて、違いを的確に指摘している</p> <p>【技能】</p>
2	<p>塩山出身の実業家雨宮敬次郎について知ろう</p>	<p>○地域の発展に尽くした先人の具体的な事例を調</p>	<p>○地域の方の話を聞き、雨宮敬次郎について意欲的に調べようと</p>

	○雨宮敬次郎について、地域に住んでいる方に話を聞く。	べ、地域の生活の向上と関連づけてとらえるとともに、よりよいくらしを願う人々の思いに気づくことができる。	している。 【関心・意欲・態度】 ○地域の方の話を聞き、必要な情報を適切に集めている。 【技能】
3	塩山からほかの町へ ○鉄道が通る前の物流が青梅街道，秩父往還，甲州街道によることを知る。	○鉄道が通る前の街道による人々のくらしや物流の様子を知り，当時の人々の苦労や願いを知る。	○鉄道が通る前の人々の生活の様子や苦労，願いと関連づけて，開発を行おうとした理由を考えている。 【思考・判断・表現】
4 本時	中央本線が開通するまで ○雨宮敬次郎が中央本線の開通にどのように関わったかを調べ，どんな願いをもっていたかを考える。 ○鉄道が敷かれる場所がどうやって決まったかについて考える。	○雨宮敬次郎が鉄道を通そうと考えた理由を，当時の人々の暮らしと関連づけてとらえることができる。 ○塩山に鉄道が敷かれた理由について知る。	○当時の人々の生活の様子から，雨宮敬次郎が，どんな願いをもって鉄道を通そうとしたかについて，自分の考えを表現することができる。 【思考・判断・表現】 ○塩山に鉄道が敷かれた理由について，資料から読みとっている。 【技能】
5	たいへんだったトンネル工事 ○鉄道が通るまでの苦労について，トンネル工事を中心に調べる。	○鉄道が開通するまでにどのような苦労があったかを，トンネル工事の様子から考えることができる。	○鉄道工事の過程の努力や苦労から，先人の思いや願いについて考え，発表したり書いたりしている。 【思考・判断・表現】 ○地域の開発における先人の苦労や努力，工夫について理解している。 【知識・理解】
6	中央線の開通と地域の発展 ○中央本線の開通とそれにもなう塩山の発展について調べ，雨宮敬次郎がどんな思いだったかについて考える。	○中央本線が開通し，塩山の町やくらしがどう変わったかを知り，さまざまな物流がさかんに行われたことを理解する。 ○鉄道ができるために尽力した雨宮敬次郎がどんな思いだったかについて考えをもつことができる。	○開発によって，地域にどのような変化をもたらされたかを理解している。 【知識・理解】 ○鉄道ができて，雨宮敬次郎がどのような思いをもったかを考えている。 【思考・判断・表現】

7	中央本線の発展 ○鉄道開通後、現在までに中央本線がどのように変わり、塩山駅や町並みがどう発展してきたか調べる。	○現在までの中央本線や塩山駅の変化について調べ、地域の人々の努力や願いを知り、これからの町づくりに関心をもつことができる。	○中央本線や塩山駅が、その後どのように発展して現在につながっているのかを意欲的に調べたり、その背後にある人々の願いを考えたりしようとしている。 【関心・意欲・態度】 ○中央本線や塩山駅が、その後どのように発展して現在につながっているかを、人々の願いや工夫と関連づけて考えている。 【関心・意欲・態度】
8	中央本線と塩山のうつりかわり ○雨宮敬次郎の生涯から、中央本線ができるまでと、その後の塩山のうつりかわりを関わらせた年表をつくる。	○これまで学習してきたことをもとに、雨宮敬次郎の生涯と鉄道ができるまで、及びその後の塩山の移り変わりについて、年表に表すことができる。	○学習してきたことをもとに、わかりやすく年表にまとめている。 【技能】

6 本時の学習

(1) 日時 平成25年8月30日(金) 5校時 14:00～14:45

(2) 場所 甲州市立塩山北小学校 4年教室

(3) 目標 雨宮敬次郎が鉄道を通そうと考えた理由を、当時の人々の暮らしと関連づけてとらえることができる。

(4) 展開

過程	児童の活動および学習内容	教師の指導と支援	評価と備考
つ か む 調 べ る	1 前時の振り返りをし、当時の人々の苦労や願いを考えせる。 ・峠道をこえるのが大変だった。 ・たくさん荷物を運びたい。	○鉄道ができるまで、塩山から他の地域への物流は、甲州街道・青梅街道・秩父往還を通して行われていたことを振り返る。	
	2 雨宮敬次郎が当時どのような活動をしていたかを知る。 ・甲武鉄道 ・川越鉄道 ・東京市街鉄道	○山梨県と周辺地域の地図に書き込んでいく。 ○写真資料等を見せ、当時の鉄道の様子を知らせる。	・地図資料 ・写真資料

<p>ふ か め る</p> <p>ま と め る</p>	<p>・ 豆相人車鉄道（小田原－熱海間）</p> <p>3 鉄道事業に数多く携わっている事に注目し、他にも鉄道を開通させようと尽力した人について知る。 ・ 若尾逸平</p> <p>4 中央本線のルートについて、なぜ塩山の方に迂回しているかを調べる。 ・ 急坂で、機関車が上ることができないから。 ・ 塩山の自分の家の裏に鉄道を敷きたかったから。</p> <p>5 鉄道を開通させようとする理由や、雨宮敬次郎の鉄道開通への思いを調べる。 ・ 山梨の生糸をはやくたくさん運べるようにしたい。 ・ 雨宮敬次郎は、鉄道が日本のために大切だと力説していた。</p> <p>6 鉄道を開通させたい人々の思いを、雨宮敬次郎を中心としてまとめる。</p>	<p>○なぜ、多くの人が鉄道を開通させようとしたか、疑問を持たせる。 ○鉄道があることによって輸送量がどれだけ違うか、実感させる。 ○若尾逸平の鉄道案と雨宮敬次郎の鉄道案を紹介し、雨宮敬次郎が尽力したことによって現在のルートになったことについて知らせる。</p> <p>○甲州街道沿いにつくられた中央本線が塩山方面に曲がっていることに気づかせ、なぜそうなったのかを調べさせる。</p> <p>○社会科副読本や雨宮敬次郎についての資料を見ながら調べる。</p> <p>○雨宮敬次郎語録を紹介する。 「国を強くするために大切なことは、第一には鉄道をたくさんつくること、第二には鉄をたくさんつくることである。」</p> <p>○当時の人々がそれぞれどう考えていたかを振り返り、自分の言葉にしてまとめさせる。</p>	<p>・ 写真等資料 ・ ワークシート</p> <p>・ 雨宮敬次郎の鉄道開設に向けた資料（山梨鐵道起業意見書）</p> <p>・ 副読本「わたしたちの甲州市」 ・ ワークシート</p> <p>・ ワークシート</p> <p>・ 掲示用カード</p> <p>○当時の人々の生活の様子から、雨宮敬次郎が、どんな願いをもって鉄道を通そうとしたかについて、自分の考えを表現することができる。 【思考・判断・表現】 ・ ワークシート</p>
---	---	--	--

(板書)

雨宮さんは、どんな思いで塩山に鉄道を通そうとしたのでしょうか



若尾逸平

ごてんば～富士山～甲府



雨宮敬次郎

八王子～塩山～甲府

甲武鉄道

川ごえ鉄道

...

...

...

国を強くするために大切なことは、
第一には鉄道をたくさん
つくること、
第二には鉄をたくさんつ
くることである。

雨宮さんの思い

(パワーポイント資料)



7 研究授業を終えて

- ・キーワードとなる用語を空白にして子どもに考えさせるなど、ちょっとした工夫で子どもと課題を近づけることができる。ワークシートや掲示物など、工夫してみると良い。
- ・馬車と鉄道とでは、物を運べる量が大きくちがう。今回は写真で示したが、数字的な比較ができて良かった。(米俵の運べる数など)
- ・前時の学習が生かしていたか。授業の導入で、鉄道のない時代の苦労や大変さをもっと想起させる必要があった。荷物が多いこと、時間がかかること、危険があったこと等、もう少し引き出して押さえておけば良かった。
- ・調べる前に、子どもたちに考えさせ意見を交換した後、調べる方法が良かったのではないか。
- ・子どもたちの作業がもっと入った方が良かった。説明が多かった。
- ・社会認識を育む上で、事実(生糸生産がさかんであったり、他の地域では鉄道がすでに通っていたりすること)と事実(鉄道を開設しようという流れ)を結びつけることが大切である。
- ・先人の工夫や願いを考えるためには、当時の生活の様子や雨敬さんのことなどを、もっと子どもたちに調べさせる必要がある。調べさせた上で、考えさせるようにすると良い。
- ・地域教材を取り上げることが良かった。さらに深めるためにどうするかが今後の課題となる。
- ・資料をもとにして、考える、話し合う場面を設定するとよい。